

SAPANA

~あなたの食卓にひとりのお客様を~

認定NPO法人いきいきフォーラム草の根支援 HP: http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiiki-kusanone/

〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8コミュニティスペース「ほのぼの」内

T&F 03-3816-5346

E-mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp 郵便振替番号:00180-7-315287 フォーラム草の根支援「食卓の貯金箱」

ネパール大地震の模様をOKバジから生で聞きました

子どもたちに早く万金な教育の場を

4月25日にネパール・ゴルカ郡を震源地としたマグニチュード(ネパールではレクター)7.8の大地震にタンセン(被害小)で遭遇したOKバジこと垣見一雅さんは、その時さほどのこととは思わなかったと、いきいきフォーラム草の根支援の呼びかけで集まった「バジさんを支援する仲間(5団体)」の会合(6月2日開催)での第1声は思いがけない言葉から始まりました。しかし、数時間後にカトマンズや



地震で落ちてきた大岩とバジさん

周辺地域で甚大な被害が出ていることを聞き、大地震であったことを知ったとのこと。

バジさんがこれまで支援してきた東パルパ地方は、被害の大きかった地域に比べると少ない被害で済んだものの、55 所帯中 42 所帯が被害度 A(A:大、B:中、C:小と被害程度を分類)の村を訪れ、とりあえずの支援が必要と判断し20 万ルピー(日本円で25 万円)を支援したところ、行政(県知事相当)から直接電話があり、公平を期すため今後個人的な支援はしないで欲しいと釘をさされたとのこと。しかし、公平を期すために、量が揃うまで配給を止めたので、大量のパンやお米を腐らせ、折角の支援を無にしてしまう政府の愚策も披露されました。

一方で、教育庁からも呼び出され、学校施設他教育の場(調査中)復興に協力願いたいと要請されたとのこと。バジさんとしては、どこに配分されるか分からない政府の救済基金に日本からの救援金を供出するのでなく、いま屋外、野菜集荷場などで勉強することを余儀なくされている日本の支援で出来た学校施設の復旧を一日も早く実現したいというお考えで、目に見える支援を願っている私たちの気持ちをしっかりと受け止めていただきました。

5月中旬にフォーラムの会員および「食卓の貯金箱」ご支援者に呼びかけをしました 救援募金は、5月末現在で既に225名の方々からご支援をいただいています。9月末ま で続けます。(送付先は下記ご参照)

ご友人・知人の方々にも募金にご協力いただくよう働きかけをお願いいたします。

募 金 送 付 先

郵便振替口座: №.00150 - 9 - 299635

ロ 座 名 : NPO 法人いきいきフォーラム草の根支援

※振替票の通信欄に「ネパール救援口」と記載方お願いします。

ネパール便り ー 報告



《第 12 次ネパールツアー報告》

第12次ネパール訪問ツアーは、総勢5名で 3月10日から20日までの日程で実施されまし た。それから、約1ヶ月後の4月25日に発生 したネパール大地震、そして5月12日の大き な余震のニュースに、一同大きなショックを受 けています。私たちが支援している東パルパ地 域の被災状況は、1 頁に記載の通りですが、あ の時訪れた村の家々、田畑、学校はみんな大丈 夫だったのだろうか、満面の笑顔で迎えてくれ た村びと、子どもたちの顔が曇ってはいないか



と色々な思いが頭の中を巡って、ツアー報告を書くのも躊躇したくなる気持ちもあります。 しかし、今回のツアーでの体験を通じて、今後の支援の新たな展開を考えるヒントがあっ たように思いますので、その辺を中心に以下ご報告申し上げます。

(文責:高木、写真提供:上野)

絵の交換を通して日本・ネパールの 学校間の交流を!

一行は上野ご夫妻、桐生さん、菅野さん、高木の5名、訪問先は、**ブッシュルダーダ校**、 ジャナカラヤン校、チャンディカ幼児教室、バヌバクタ校、ジャナウッジャル校、シババ



リ幼児教室の5ヶ所です。うち、公式行事が あったのは、奨学金贈呈式のあったバヌバクタ 校と教室引渡し式のあったシババリ幼児教室 でした。ネパールの公式行事では、関係者の長 い挨拶、踊り、歌等による歓迎祝典が必ずあり、 2時間以上となることが普通、今回は行事が少 なくて助かりました。そのお陰で、先生方や、 生徒たちとの交流に時間を割くことができ、新 たな試みもしてみました。

一つは、ブッシュルダーダ校とジャナカラヤン校で 菅野さんが日本から持参した市ヶ谷小の生徒が描 いた想像上のネパールの絵を見せた後、上野さん指 導のもと生徒たちに自画像を描いてもらいました。 構図デッサン法で描いてもらった5年生の絵、(上 写真)は画一的な表情となってしまいましたが、自 由にとした2年生の絵(右写真)は大変いきいきと したものとなりました。これらの絵は持ち帰って、市ヶ谷小の生徒たちに見てもらう



予定です。この絵の交換を通じて、日本とネパールの学校間の継続的な交流が進展していくよう、私たちが今後手助け出来ればと考えています。

道具はなくても楽しめる遊びの紹介

バヌバクタ校で、先生たちが公式行事の準備で忙しい間に、低学年の教室に飛び込んだ上野夫人が、言葉が通じないので挨拶代わりに行った手拍子リズム運動(チャッチャ





また、シババリ幼児教室では、古新聞を利用した紙鉄砲遊びを紹介し、上手にできると結構大きな音が出るので、子どもたちは面白がっていました。チャンディカ幼児教室では、日本から持参した折り紙独楽やゴム風船に、目の色を変えて遊び興じていました。

道具がないから子どもたちを遊ばせられない という話を、先生がたからよく聞くのですが、遊 び方についてのノウハウがないため、道具に頼っ

ッチャチャチャと手拍子をしてから、 手を挙げたり、足を挙げたり)が、生 徒たちに大受けしました。先生が教室 に来ても手拍子を続けて先生から叱ら れたり、私たちがお別れする時に手拍 子で送ってくれたり、それを見たOK バジが大変気に入って、次の訪問校で 自ら披露。この手拍子運動は東パルパ に広まっていくのではないかと思った くらいです。



ている面もあるので、先生がたを対象に遊び方教室のようなものを行うのも一案かと思いました。当面、大地震で被害を被った村、学校、人々の復興を支援していくことが、私たちの活動の中心となっていくでしょうが、教育支援の新たな芽が少しずつ見えてきたなというのが今回のツアーで感じたことでした。

里子を訪ねて《里子さんに会うため更に奥地まで出掛けた桐生正宏さんの感想》

二人の里子の通う学校はいずれも山深い場所にあり、一つはOKセンターからジープで約4時間のアンシュパルマ校、一つはドリマラ村より歩いて2時間の地にあるカマラ小学校です。アンシュパルマ校では休校日にも関わらず50人余りの生徒達が迎えてくれ一人一人から花の首飾りをかけてもらいました。顔はすっかり花輪で埋まってしまいました。カマラ小学校では子供達や先生の他に多くの村人も集まって歓迎してくれ、鼻をすすりながら小さな手を合わせて「ナマステ」と子供達が声をかけてくれました。学校の近くの民家で昼ごはんをご馳走になりましたが、炭火で焼いた地鶏をとても美味しく頂きました。大自然の中で伸び伸びと育っている二つの学校の子供達一人一人に、お土産に持って行ったノートとボールペンをOKバジさん達と一緒に手渡し、里子の両親・家族の皆さんとも一緒に記念撮影をする等大変うれしく幸せな一時を過ごす事が出来ました。



タイひよこホーム便り

山岳少数民族"ラフ族"の子どもたちが住むタイ北部の 山の村々には学校がありません。町の学校の近くにある 「ひよこホーム」で寮母夫婦と共同生活をしています



こんにちは。お元気ですか?おかげさまで ひよこホーム の子どもたちは みんな元気で山の家から帰ってきました。みんな新しい Class を楽しみにしています。でも今年新しく入寮してきた二人は(幼稚園生)泣きながら学校へ行っています。今年は男の子 12 人、女の子 21 人、全員で 33 人です。

いつも日本の多くの方々にお世話になっています。どう もありがとうございます。皆さまのご協力で山の子ども たちは毎日勉強ができます。皆さまのご親切を心から感 謝します。 God bless you all Yati



YatiSuthida 幼稚園 1 年生(6 歳)左 Yonlada 幼稚園 2 年生(6 歳)右



SEDSEU

南インド、地域の NGO「SEDS」(セッズ) の寮で生活する 低カースト、極貧困農民の子どもたちを支援しています

SEDSに対する支援については、本年度も前年度同額の 40 万円を予定しています。本年度より連絡窓口を高島さんから当法人理事の伏見和史に交代する事になりました。現在その手続きを進めています。例年のように、協定書を交わした上で、送金することとします。高島さんには長い間、お世話いただき、誠に有難うございます。

東日本大震災への支援について

2013 年度に、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援を中心に活動している相模原市の「母ちゃんず」と福島県郡山市の「移動保育プロジェクト」の2団体に支援しました。14 年度は「母ちゃんず」は引き続き支援しましたが、新たな支援先を模索したものの確定するに至りませんでした。

今年度も支援先を検討し、継続していく予定です

OFY OP OF

AGORA(広場)

この頁は皆様との楽しい交流の場です 日頃お考えのこと、作品や写真など、 何でも結構ですからお寄せください。

「コバコ会」 食べて、笑って…貯金箱へ

足立区竹の塚駅近くの小林二三枝さんのお宅に毎月最終水曜日、会員たちが集まってきます。お弁当、手芸道具持参で。まずは昼食会「これ、美味しい!」「作り方は?」等々ワ

イワイガヤガヤ〜笑い声が拡がります。そしてテーブルの上の貯金箱へチャリン、なかには「今日は気分がいいからカミ(紙幣)を」という方も…

昼食後、端切れや古布で小物作りに励みます。作品 はバザーに提供して喜ばれているとのことです。

メンバー12名の平均年齢は7?歳、最高は81歳、皆さんお元気で、山登りも楽しんでおられます。

メンバーの中の千葉むつ子さん、松川英子さんは個人的にも「食卓の貯金箱」のご支援者です。千葉さんは「食卓の貯金箱」創設以来三十数年間継続してご協力いただいております。感謝!

取材に気持ちよく応じていただきました



* 仲間と集い・食べ・笑い・手を動かす一これこそ長生きの秘訣。皆さんいつまでも 仲良くお元気で…そして「コバコ会」に食卓の貯金箱の精神の原点を見た思いでした。 取材 上野志津代 湯川弓子

振込用紙の通信欄より

5.8 (M.O)

本当に少額ですが、有効に役立てて下 さる窓口があることに感謝し、送らせ ていただきます。いつもありがとう! 5. 18 (T. K)

認定NPO法人になられ、確定申告で税金 控除が受けられるようになって、さらに励 みがついたような気になりました。認定取 得のご努力に感謝します。

お葉書もいただきました

総会資料を拝見し、「食卓の貯金箱」運動がしっかり受け継がれている事を確認致し嬉しく存じます。皆様の日頃のご苦労に感謝申し上げます。又、ネパールの復興に向けての支援もよろしくお願い申し上げます。 2015. 5.26 坂田 喜子(「食卓の貯金箱」運動創始者)

アゴラしよう!に参加しませんか

昼食を食べながら、思ったことをワイワイ話し合います。お気軽にご参加ください。

- 1. とき 2015年7月24日(金)12:30~15:00
- 2. ところ 文京区向丘 1-7-8 (コミュニティスペースほのぼの内) いきいき事務所

掲 示 板

1. 第8回定期総会が開かれます

平成 26 年度の事業報告の承認と 27 年度の事業計画を議論決定いただくための「認定NPO法人いきいきフォーラム草の根支援」の第8回定期総会が下記により、開かれます。会員の方はもとより、傍聴も歓迎いたしますので、関心のある方は是非、お出かけください。

と き 平成27年6月12日(金)午後1時30分より、終了後引き続き**OKバジ報告会** ところ 文京シビックセンター・5 F北側、区民会議室A・B室(最寄り駅は、東京メトロ丸の内・南北線の「後楽園駅」、都営地下鉄三田線・大江戸線の「春日駅」です。)

2. OKバジ帰国報告会は、次により開かれます

以下の日程となりました。最寄りの会場へお出かけください。

- ① 6月8日(月) 13:30~16:30 鴻巣にて「ナマステ 2010」主催~ 鴻巣文化センター(クレアこうのす)会議室
- ② 6月12日(金)15:15~16:45 東京にて当法人総会後「帰国報告会」~ 文京シビックセンター5階区民会議室A・B室
- ③ 6月24日(水)14:00~16:30 横浜にて~神奈川近代文学館中会議室
- ④ 7月2日(木) 13:30~15:30 大和にて~ 大和市生涯学習センター2階会議室
- ⑤ 7月7日(火)13:30~16:30 仙台にて~仙台支部「帰国報告会」~ エル・ソーラ仙台(仙台・アエル 28 階)大研修室
- ⑥ 7月13日(月)14:00~16:30 千葉にて~千葉市生涯学習センター大研修室

【投稿】戦争をしない国だからこそできる国際支援 平山 隆一

3月末理事仲間で、こまつ座のお芝居「小林一茶」観劇と樋口陽一先生のアフタートークを拝聴しました。

一茶の前半生、江戸での苦難の時期に、下宿先で起こった大金紛失事件の真相解明、 そこで浮かび上がってきた宿敵・竹里との俳諧師の地位と女性をめぐる奪い合いを物 語に仕立てた、井上ひさし会心作の評伝戯曲。一茶はスター俳諧師となることを捨て、 独自の俳句を求め江戸を棄て信濃に帰る道を選びます。

樋口先生は、俳諧の凭れ合い集団『座』から離れることで一茶の『個』が確立でき、一茶俳風ができあがったが、翻って憲法で一番大切な条文は第13条の「個人の尊重」であること、戦争は國家権力が個人の自由や財産を踏みにじる最悪のものであること、憲法を自ら守り抜く不断の努力と覚悟が今こそ求められていることを強調し、易きに流れず、個人個人でしっかりと現状をみすえて判断することの重要性を説き、一茶の次の句を紹介されました。

『世の中は地獄の上の花見哉 一茶』

(樋口陽一先生は、憲法九条の会の創設者故井上ひさしと仙台一高の同級生であり、現在こまつ座の取締役です、また我NPOいきいきフォーラム草の根支援の顧問でもあります)

「ネパール大地震被災者救援募金」へのご協力誠に有難うございました(5月末現在) ※詳細省略

「ネパール震災救援口」に振り込まれた方々の声です。有難うございます。

☆ニュースを見る都度心を痛めておりました。私の気持ちを伝えてください。少しですが どうかお役に立ててください。 (松山市、I.A さん)

☆少しでもお役に立てますよう、お祈りしております。 (仙台市、K.M.さん)
☆確実に必要な人に届く、安心して支援できます。わずかですが役に立つことを願って…
(上越市、H.A さん)

☆上野明雄さんの FB (フェイス・ブック) を見ました。 (中野区、K.K さん)

☆取り急ぎ少々ですが送ります。地震は怖いです。1944~45 の東海地震を思い出します。 郵便局が遠くて遅くなりました。 (豊橋市、W.T さん)

☆理事をされている方からこの基金を教えていただきました。かつて訪れたネパールの現 状を心配しております。 (新宿区、K.T さん)

☆ネパール地震、心が痛むばかりです。少しずつでも、できることをつないでいきたいです。 (深谷市、K.Aさん)

ご支援者の皆さま、誠にありがとうございました。 「食卓の貯金箱」口座へのご支援者(2015年3月~5月) ※敬称略 ※詳細省略

「**いきいき草の根支援」口座へのご支援者**(2015年3月~5月) ※敬称略 ※詳細省略

理事会だより

*今号より「いきいきフォーラム草の根支援」 にご支援下さる全ての寄付者のお名前を領収書 の意味合いを含めて掲載させていただくことに いたしました。そして、従来「食卓の貯金箱」 のご支援者を中心に送らせてもらっている本誌 「SAPANA」をすべてのご支援者(寄付者)に 配付することといたしました。1年に4回の配 付ですが、本誌の広範にわたる配付により、当 法人の事業資金の入金の全体像をより透明に皆 さんにお伝えしたいと考えたからであります。

- ★1年分をまとめた領収書は、従来同様、全ての寄付者に対し、1月に発行いたします。
- ★本号をご覧になった読者には、「○○さんは、食卓での支援ではなく草の根支援口座での支援なんだ」という発見があるかもしれませんね。お互い刺激になればうれしいのですが。

編集後記

- *読まれる本紙を目指して、「アゴラしよう!」で検討してきた新企画として、「コバコ会」を取材して参りました。取材希望される方・グループがございましたら、ぜひいきいき事務所まで、お知らせください。
- *1 Pでも触れたところですが、今回の ネパール地震への救援金の取り組みに対 する皆さまの反応はわずか半月の間に 225 名という多数の方々にも見られよう に素早いものでした。
- *バジさんが、5月31日に帰国されたのですが、奇しくも「小笠原沖地震」に見舞われました。これから始まる帰国報告会でも、元気な姿に接することができます。最寄りの会場にお出かけください。